

グリコのおもちゃ すころく！

1922 スタート！

栄養菓子グリコ、三越で本格的に販売開始。絵カードが封入



1927

豆玩具おもちゃ登場

英雄の肖像や動物が描かれた銅製のメダルなど



1929

おもちゃ専用の小箱が登場

それまでは、お菓子とおもちゃは同じ箱に入っていた。



1932～

引換商品のキャンペーン創案



明治天皇の和歌集や世界の国旗集などさまざま。お菓子の中に入っている引換証を集めると、枚数に応じて商品がもらえた。

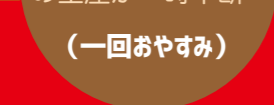
1941

紙や粘土のおもちゃが主流に
戦争による材料不足の中でも工夫を凝らした。



1942

戦禍によりおもちゃつきグリコの生産が一時中断
(一回あやすみ)



グリコ展 須田国太郎の愛した グリコのおもちゃ

「ひとつぶ 300 メートル」というキャッチフレーズでおなじみの栄養菓子「グリコ」。販売開始から今年で100周年を迎えました。栄養菓子グリコは、創業者である江崎利一氏が、商品名の由来となった牡蠣の成分、グリコゲンに着目し、試行錯誤の末に完成させたキャラメルです。

そして「子供にとって食べることで遊ぶことは二大天職である」と考えた利一氏は、お菓子におもちゃをつけることを考案します。「お菓子を食べる」も「おもちゃで遊ぶ」もどちらも重要であるという思いから、付属の「おもちゃ」のことを「おまけ」とは呼ばないこだわりがここに生まれました。栄養菓子「グリコ」の登場した1922（大正11）年には、「グリコのおもちゃ」の前身となる「絵カード」がお菓子と一緒に封入されます。その後1927（昭和2）年より本格的な「おもちゃ（おまけ）つきグリコ」がスタートしました。以降、時代の流れや多様化する子供たちの遊びとともに、グリコのおもちゃも変化し続けながら現在に至っています。このおもちゃの長い歴史は、時代を映す鏡と言えるでしょう。

このおもちゃの発想や造形に魅了され、収集した一人の洋画家がいます。近代洋画の巨匠、須田国太郎（1891-1961）です。須田は、美術史など学術研究から芸術の道に足を踏み入れ、その後画家として活躍した異色の芸術家です。生前から芸術への見識や美意識、審美眼の高さに定評があり、一目置かれる存在でした。そんな彼の知られざる一面がグリコのおもちゃコレクションです。その数715点。現在にまで至る日本のおまけ文化の一端を、100年という長い間育ててきたグリコ。須田は先見の明で未来を見通していたかのようです。

須田国太郎常設展示館である当館では、1949年から1961年までの須田のグリココレクションに注目し、あわせて大正時代から現在までの100年に及ぶグリコのおもちゃの変遷を、栄養菓子グリコ誕生の秘話とともに紹介します。小さなおもちゃの世界、しかし大きな夢やなつかしさが溢れるその魅力に触れながら、親子三代でお楽しみください。

1947

グリコ復活！
おもちゃはクレヨン、消しゴムなど実用小物が主流に。



1949

グリコのおもちゃ（遊具小物）が本格的に復活！

須田国太郎がグリコのおもちゃの収集をはじめ。

(2コすずむ！)



1953

ミニチュア化したおもちゃが登場
木やブリキ、鮮やかなセルロイドを使った精巧なおもちゃ。



1981-86

独自のキャラクターおもちゃ登場



1967-73

男の子用と女の子用のおもちゃが登場



1957

プラスチック製のグリコのおもちゃ登場



1987～

親子であそべるおもちゃ登場
木彫家、加藤裕三氏によるデザインのおもちゃ登場



1998

木のおもちゃ登場



2001

タイムスリップグリコ発売
昭和ブームの火付け役となった。(2コもどる)



2017- 現在

アプリで遊べるアソビグリコ登場



ゴール！

2010

アソビグリコ登場
カラフルな木のおもちゃ



2005

ぐりこえほん登場
6cm四方のミニ絵本。ハードカバーで小さくても本格的！



関連イベント

開会式

□日時 | 7月30日(土) 10:00~ (15分程度)
□会場 | 当館1階 □開会式へご参加の方は入館料が無料となります。

展示解説

会場を巡りながら、石橋達二氏(江崎グリコ株式会社 江崎記念館館長)による解説を行います。
□日時 | 7月30日(土) 開会式終了後 10:25頃~
□会場 | 当館展示室 □参加費 | 無料(ただし入館料が必要です)
※開会式からご参加の場合は入館料が無料となります。

ギャラリートーク

当館学芸員によるギャラリートークを行います。
□日時 | 8月21日(日) 14:30~
□会場 | 当館展示室 □参加費 | 無料(ただし入館料が必要です)

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため、混雑が生じた場合は入場制限をさせていただく場合がございます。ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

ワークショップ

協力: グリコのおもちゃデザイナー
宮本順三記念館 豆玩舎 ZUNZO

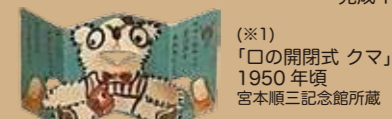
A 「なきせみ」をつくろう！ [開催日] 8月20日(土)

まわすとセミの鳴き声のような音がする不思議な工作。
(1人15分程度)



B 「パッパッ絵本」 [開催日] 8月28日(日)

口がぱくぱくと動くミニ絵本をつくります。
昭和25年頃のおまけ(※1)を応用にした工作です。
(1人20分程度)



(※1)
「口の閉閉式クマ」
1950年頃
宮本順三記念館所蔵

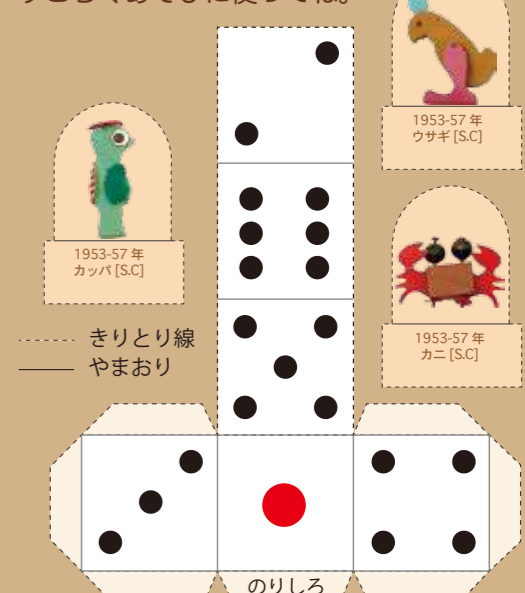
時間 | ①10:00~ ②10:30~ ③11:00~ ④11:30~
⑤13:00~ ⑥13:30~ ⑦14:00~ ⑧14:30~
会場 | 当館エントランス
参加費 | 無料(ただし入館料が必要です)
※予約制、各時間帯2名ずつの制作で行います。

[申込方法]

ご希望のワークショップ名、希望時間(第二希望までお伝えください)住所、氏名、電話番号(昼間に連絡がとれる番号)をご明記のうえ、下記メールアドレスまたはFAX、お電話でお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。

[メールアドレス]: honjin@shimokamagari.jp
[FAX] 0823-70-8044 [TEL] 0823-70-8088
〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬 311
[URL] http://www.shimokamagari.jp/

すころくあそびに使ってね。



公益財団法人 島島文化振興財団
三之瀬御本陣芸術文化館
SANNOSEGOHONJIN ART MUSEUM
- 須田国太郎常設展示館 -